

保育計画(新規事業計画)成果報告書

法人名等	津市(公立)
施設名	河芸こども園
報告者(役職)	森田 由貴(園長)
住所・連絡先	三重県津市河芸町上野3 1 3 0
	☎ 059-245-1167
	E-mail 245-1167@city.tsu.lg.jp

○タイトル(保育計画 or 新規事業計画)

みんなで心地よく過ごせる図書コーナー
～棟を超えて、図書コーナーを通した温かい交流を～

○主な助成備品

絵本、大型絵本、ベンチ等

1. 保育計画(新規事業計画)策定の目的

河芸こども園は令和4年4月に幼保連携型認定こども園として開設した。当園は2棟式園舎で、道路を挟んで100Mほど離れたところで乳児棟(0, 1, 2歳児)、幼児棟(3, 4, 5歳児)に別れて生活をしている。2棟式園舎では、乳児、幼児それぞれの発達に合わせた環境が作りやすかったり、歳児に合わせて伸び伸びと園庭を使えたりなど、良い面もたくさんある。しかし、乳児と幼児が普段からお互いの遊んでいる姿を見たり、遊びを通して触れ合ったりするなど、自然に交流していくことが難しいところが2棟式園舎の大きな課題である。

そこで、昨年度より月2回の『わくわくデー』と称した、乳児棟、幼児棟の子どもたちが交流する日を設けることにした。この時間には、本が好きな子どもはゆったりとした気持ちで絵本の世界と一緒に楽しみ、運動が好きな子どもは意欲的に体を動かす遊びをし、ままごとが好きな子どもはたくさん話をしながら遊ぶなど、自然な異年齢のふれあい交流を大切にしてきた。

その中でも、今回、助成金を活用させていただき、幼児棟の1階に絵本コーナーを作ることにした。子どもたちが立ち寄ってみたいと思うような温かい雰囲気のコナールにし、『わくわくデー』では、絵本コーナーで乳幼児が一緒に読み聞かせを聞いたり、保育教諭の膝に座って絵本を読んでもらったりなど、主に絵本を通しての異年齢のふれあい交流が深まってほしいと願い、保育計画を策定した。子どもの心を豊かに育てる絵本の力を用いながら、子どもたちの結びつきを大切にしたい保育の充実を目指している。

2. 具体的な実施内容

○温かい雰囲気 of 絵本コーナーの設定

幼児が登園してくる玄関からもよく見えるところに設置した。子どもたちが興味をもてるような素敵な絵本、絵本棚、カラーカーペットで落ち着いた雰囲気を大切に、そこに子どもたちが隣同士で座ったり、向い合ったりできるように、移動しやすい軽いベンチを配置した。保育教諭からの意見で、壁かけの絵本棚や、ベンチの布カバーも作成し、子どもたちにとってより居心地のよい環境づくりを心掛けた。

<幼児棟の絵本コーナー>



先生たちのアイデアで、壁掛けの小物入れや絵本棚を製作。ベンチもかわいいカバーをかぶせて温かい雰囲気に！！

「どの先生のおすすめ絵本でしょうか？」クイズ形式で、先生たちのおすすめ絵本にふれています。

○子どもたち同士の関わり

それぞれの歳児にあった絵本をたくさん購入できたので、子どもたちが自分の興味関心のある絵本を、カーペットに座ったりベンチに腰掛けたりして楽しんでいる姿が見られる。

<絵本を通しての異年齢交流>



これ、なあに？

<友達と一緒に絵本を読む姿>



<週1回の絵本貸し出し>



時には、やさしい音楽を流して
ゆったりした雰囲気を！

絵本を持って帰って、おうちの人と
一緒に読むの大好き！

○保育教諭とのかかわり

保育教諭が大型絵本の読み聞かせをしたり、保育教諭の膝の上で読み聞かせを聞いたり、心が安定する時間を過ごす姿が見られる。

<保育教諭による読み聞かせ>



「先生に読んでもらうの楽しい！！」大好きな先生の読み聞かせの時間は子どもたちにとってうれしい時間です。「今度はこれを読んで」という声がたくさん聞こえてきます。

○絵本コーナーの活用

ニューブロックで遊んだり、ひらがなスタンプでお手紙を書いたりして、絵本以外の活動でも、活発に活用している。

＜コーナーの一角でブロック遊び＞

＜文字スタンプでのお手紙製作＞



「せ」のスタンプはどこにあるかな？

3. その成果と評価

○交流日の『わくわくデー』に絵本コーナーを活用することで、幼児が乳児に絵本を読み聞かせようとしたり、一緒に大型絵本を楽しんだりする姿が見られた。また、保育教諭も異年齢との定期的な関わりを積み重ねる中での、子どもたちの成長を感じることができた。

○幼児棟の1階に絵本コーナーを作ったことで、特に幼児が絵本を身近に手に取ることができ、気に入った絵本を読む姿が増えてきた。また、幼児を中心に友達と一緒に絵本を見たり、読んで気が付いたことを話したりなど、保育室とはまた違う雰囲気の中で絵本を通した友達との関わりをゆったりと楽しんでいる様子が見られるようになってきた。一方で、自分で字が読める幼児でも「先生読んで」と保育教諭の膝の上で嬉しそうに絵本を読んでもらうなどして、心が安定して心地よく過ごす子どももあり、保育教諭が予想していなかったような子どもたちの姿が見られ、成果につながっている。

○毎週1回の絵本貸し出しでは、子どもたちが絵本コーナーから進んで絵本を借りることが増えた。家庭に絵本を持ち帰り保護者と一緒に楽しむことが、絵本を読む習慣につながっている。また、保護者にも絵本への関心をもってもらえるように、絵本に関する通信をICTで配信し、啓発に努めた。

○購入させていただいた本棚やカーペット、ベンチなどを置き、絵本コーナーを作ることができ、子どもたちも興味関心を持って絵本に触れることができた。また、これをきっかけに、職員が「壁の色を温かい色にしよう」「ベンチにカバーをかぶせると子どもたちが過ごしやすいかも」「壁付の棚があると温かい雰囲気になるね」と、意欲的に意見を出し合い環境構成を行い、職員の意識の高まりにつながった。

○幼児棟入口のところから絵本コーナーが見える為、送迎してきた保護者が園児の弟妹（未就園児）と一緒に絵本コーナーで絵本を読む姿が見られる。少しずつ保護者が気軽に活用してくれるようになった。

未就園児の子どもたちも、親子で絵本に触れる機会になっています。



○絵本コーナーの担当を決めて会議を行い、職員のおすすめブックの紹介、先生のお膝で読み聞かせタイム、絵本コーナーで季節の折り紙製作など、絵本コーナーの活用方法について検討し、実施に向けて取り組むことができた。

4. 今後の課題と展望

これまでの成果をみると、両棟の乳児と幼児が交流することについては、一定の成果が得られたように思い、とても感謝している。一方で、絵本コーナーを作って1年未満ということもあり、いかに継続して活発な活用にしていくかということに課題がある。今後は、

①園児がより楽しめるような絵本コーナーの活用の充実

- ・園児の成長発達にあった、絵本の充実（購入）
- ・季節に応じた環境構成の実施
- ・食育、防災、体についてなどテーマを決めた絵本の読み聞かせの実施
- ・読み聞かせに加え、折り紙や、季節の製作、お手紙作成など子どもの興味関心にあった活動の実施など

②絵本コーナーの利用者の拡大

園児、職員だけでなく、保護者や園児の弟妹（未就園児）が絵本コーナーを気軽に活用できるようにしていく。

- ・絵本コーナー使用についての保護者への啓発
- ・保護者向け図書の購入
- ・子育て相談できるような職員の配置など

③保育者の資質向上

- ・読み聞かせなどの保育技術の向上
- ・絵本コーナーの環境設定への参加
- ・絵本コーナーの定期的な活用に関する計画の立案、実行

などについて、職員一同取り組んでいきたいと考えている。

今回、助成金をいただき本当にありがとうございました。

以上